

エコアクション21 環境レポート



平成 29 年（対象期間：平成 29 年 1 月 ～ 12 月）



株式会社丸正土木

平成 30 年 3 月 31 日発行

= 目 次 =

1. 組 織 の 概 要	1
2. 対 象 範 囲	4
3. 環 境 方 針	5
4. 環 境 目 標	6
5. 環境活動計画及びその取組結果と評価、次年度の取組内容	7
6. 環 境 目 標 の 実 績	9
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	12
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	13

1. 組織の概要

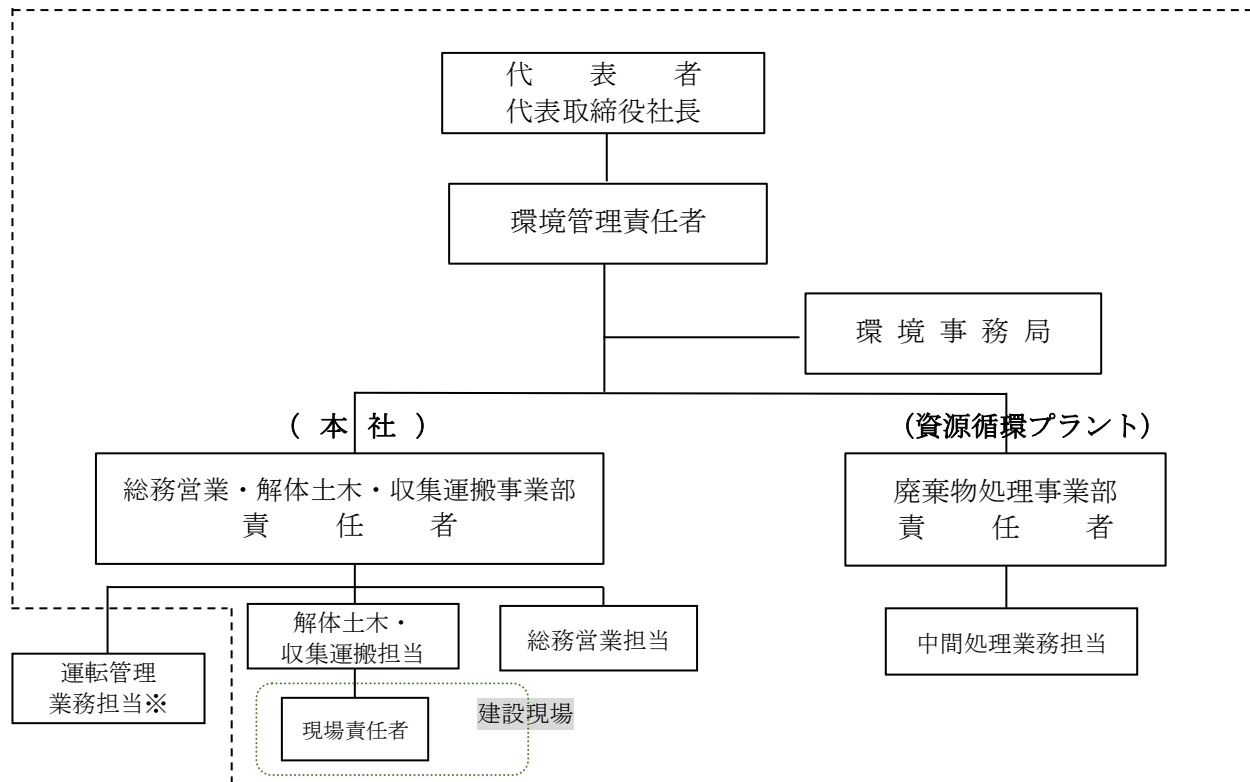
- (1) 事業者名及び代表者
 Marusho.D 株式会社丸正土木
 代表取締役 桐生 竜治
- (2) 事業所の所在地
 本社：新潟県三条市上大浦 441-1
 資源循環プラント：新潟県三条市中野原 443-1
 駐車場（無人）：新潟県三条市中野原地内
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
 環境管理責任者 芳賀 善行
 環境管理担当者 久住 英彦（本社）
 連絡先 電話番号 0256-46-3635（本社）、0256-46-5056（資源循環プラント）
 F A X 0256-46-3251（本社）、0256-46-5046（資源循環プラント）
 E-mail info@marusho-dbk.co.jp（本社）
 recycle-p@marusho-dbk.co.jp（資源循環プラント）
 U R L https://marusho-dbk.com/
- (4) 事業内容
 ① 土木工事の請負（総合的な企画に基づく土木工事及び家屋解体工事）
 ② 産業廃棄物収集運搬業及び処分業（中間処理：破碎処理、焼却処理及び焼成処理）
 ③ 特別管理産業廃棄物収集運搬業及び処分業（中間処理：焼却処理）
 ④ 一般廃棄物収集運搬業
 ⑤ 産業廃棄物を原料とした建設資材の製造と販売
- (5) 事業規模

活動規模	単位	平成 29 年
一般廃棄物収集運搬量	t/年	8.7
産業廃棄物収集運搬量		6,797.4
特別管理産業廃棄物収集運搬量		180.2
一般廃棄物処分量	t/年	30.5
産業廃棄物中間処理量		5,933.0
特別管理産業廃棄物中間処理量		317.2
（うち再資源化等量）		(2,908.7)
中間処理後の産廃の処分量※1		3,004.5
（うち再資源化等量）	(2,937.4)	
従業員数 ※2	人	64
売上高 ※2	百万円	563
建設業工事件数	件	232
本社事務所床面積	m ²	254.38
本社倉庫・作業所床面積	m ²	336.38
資源循環プラント床面積	m ²	1,866.24
敷地面積	m ²	9,930

※1：処分後の持出量 ※2：対象外事業分を含む

- (6) 法人設立年月日 昭和 62 年 1 月 5 日
- (7) 資本金 5,000 万円

(8) 組織図



人員配置

区分	本社・解体土木・収集運搬事業部門			廃棄物処理業部門	合計
	総務営業	解体土木・ 収集運搬	運転管理業務※	中間処理	
人員	8	17	(29)	10	35 (29)

※運転管理業務は三条市焼却施設での常駐従業員で認証登録対象外

(9) 廃棄物処理業の概況

【産業廃棄物収集運搬業】

産業廃棄物 収集運搬業	新潟県許可 01513008548 【優良基準適合】	許可年月日 平成 29 年 9 月 8 日	有効期限年月日 平成 36 年 7 月 25 日	[事業の範囲] 燃え殻、廃油、紙くず、鉱さい、ばいじん、汚泥、 木くず、繊維くず、がれき類、動植物性残さ、廃 プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンク リートくず及び陶磁器くず、ゴムくず（以上、石 綿含有産業廃棄物を除く。積替え保管なし） 紙くず、木くず、がれき類、廃プラスチック類、 ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず （以上、石綿含有産業廃棄物に限る。積替え保管 あり：新潟県許可）
	福島県許可 00707008548 【優良基準適合】	許可年月日 平成 24 年 10 月 4 日	有効期限年月日 平成 31 年 8 月 30 日	
	宮城県許可 00400008548 【優良基準適合】	許可年月日 平成 29 年 8 月 27 日	有効期限年月日 平成 36 年 8 月 26 日	
特別管理 産業廃棄物 収集運搬業	新潟県許可 01553008548 【優良基準適合】	許可年月日 平成 27 年 12 月 20 日	有効期限年月日 平成 34 年 12 月 19 日	感染性産業廃棄物
産業廃棄物 収集運搬業 積替え保管場所 (新潟県許可)	所在地：新潟県三条市大字中野原字大平 443 番 1 種類：紙くず、木くず、がれき類、廃プラスチック類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器く ず（以上、石綿含有産業廃棄物に限る。） 面積：8.2 m ² 積替えのための保管上限及び積み上げることができる高さ：8 m ³ （容器内）			
収集運搬車両	ダンプ 10 台、キャブオーバ 5 台、脱着装置付コンテナ専用車 7 台、 キャブオーバ（軽）2 台 合計 24 台			

【産業廃棄物処分量】

産業廃棄物 処分量 【優良基準適合】	新潟県許可 01523008548	焼却処理：汚泥、木くず、廃プラスチック類、繊維くず、金属くず、 紙くず、動植物性残さ、廃油、ゴムくず、ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず、動物系固形不要物 破砕処理：がれき類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器く ず、木くず 焼成処理：燃え殻、ばいじん、がれき類、繊維くず
	許可年月日 平成 29 年 9 月 8 日	
	有効期限年月日 平成 36 年 7 月 25 日	
【焼却処理施設】 (3号炉)	施設の設置場所：新潟県三条市中野原 443 番 1 施設の設置年月日：平成 2 年 4 月 20 日 施設の処理能力：汚泥(0.32t/日)、木くず(3.2t/日)、廃プラスチック類 (1.6t/日)、繊維くず(0.32t/日)、金属くず(0.08t/日)、 紙くず(0.32t/日)、動植物性残さ(0.32t/日)、廃油(0.32t/日)、ゴムくず (0.32t/日)、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(0.08t/日)、動 物系固形不要物(0.32t/日) 施設の許可年月日：平成 9 年 12 月 1 日	
【破砕処理施設】	施設の設置場所：新潟県三条市中野原 443 番 1 施設の設置年月日：平成 2 年 7 月 20 日 施設の処理能力：がれき類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず 232t/日	
【破砕処理施設】 (移動式を含む)	施設の設置及び係留場所：新潟県三条市中野原 443 番 1 施設の設置年月日：平成 16 年 10 月 22 日 施設の処理能力：木くず 240 t/日 (8 時間) 施設の許可年月日：平成 16 年 9 月 28 日 許可番号：新潟県三保(環)第 587 号	
【焼成処理施設】	施設の設置場所：新潟県三条市中野原 443 番 1 施設の設置年月日：平成 18 年 2 月 9 日 施設の処理能力：燃え殻、ばいじん、がれき類、繊維くず 4.56 t/日 (24 時間)	

【特別管理産業廃棄物処分量】

特別管理 産業廃棄物処分量 【優良基準適合】	新潟県許可	許可年月日 平成 27 年 12 月 20 日	中間処理(焼却処理) 感染性産業廃棄物
	01573008548	有効期限年月日 平成 34 年 12 月 19 日	
【焼却処理施設】	施設の設置場所：新潟県三条市中野原 443 番 1 施設の設置年月日：平成 2 年 4 月 20 日 施設の許可年月日：平成 9 年 12 月 1 日 施設の処理能力：0.8t/日 (8 時間)		

【一般廃棄物収集運搬・処分】

	許可番号	許可年月日	期間	種別
一般廃棄物 収集運搬	三条市 指令環第 5 号	平成 30 年 3 月 18 日	平成 30 年 4 月 1 日～ 平成 32 年 3 月 31 日	一般廃棄物(し尿、浄化槽 汚泥を除く。)
一般廃棄物 処分	三条市 指令環第 5 号	平成 29 年 3 月 8 日	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 31 年 3 月 31 日	一般廃棄物

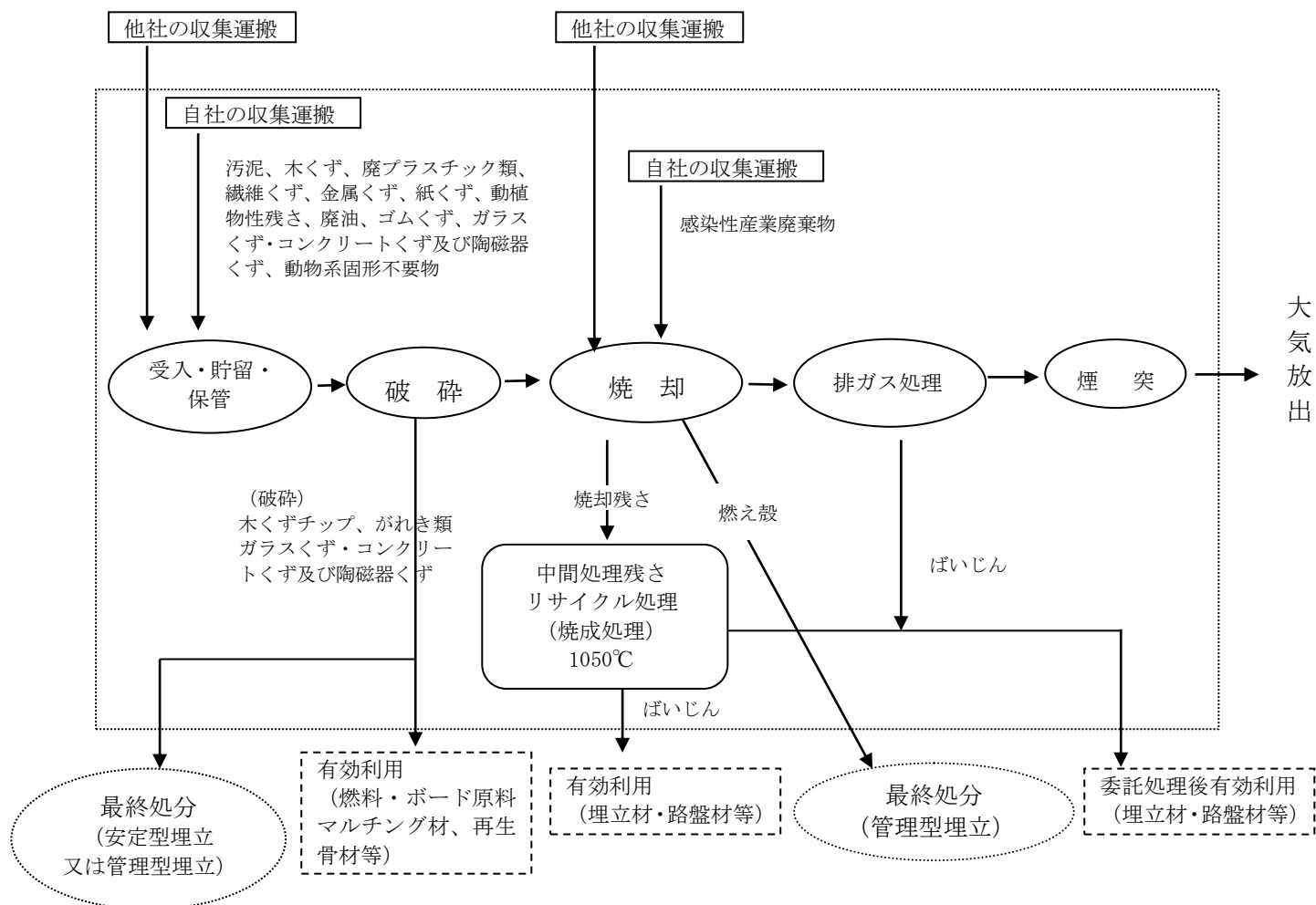
【事業の全体計画】

産業廃棄物収集運搬業は新潟県、福島県及び宮城県において、特別管理産業廃棄物収集運搬業は新潟県において、排出者の委託を受け収集運搬を行う。産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬は、車両 24 台を用いて行う。

処分量は、破砕施設 2 機、うち 1 機はがれき類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、1 機は木くず(兼移動式)を破砕処理し資源化を図る。また焼却施設により木くず、廃プラ等の処理を、焼成処理施設(1,000～1,100℃の高温処理)による燃え殻、ばいじん等の無害化を行い土木資材への再資源化と産業廃棄物の適正処理を行う。

これらの稼働においては、公害防止施設の維持管理に努め、環境汚染の防止を行うとともに廃棄物処理法を遵守し実施する。

【処理工程フロー】



(10) 一般建設業の概況

一般建設業	新潟県知事許可 (般-27) 第 21155 号	許可の有効期間 平成 28 年 2 月 10 日から 平成 33 年 2 月 9 日まで	建設業の種類 土木工事業 とび・土工工事業
-------	--------------------------------	--	-----------------------------

2. 対象範囲

(1) 認証・登録の範囲

全組織及び全活動をエコアクション 21 活動の対象とする。
(但し、三条市焼却施設常駐従業員を除く。)

3. 環 境 方 針

1 基 本 理 念

わたしたち *Marusho.D* は、事業活動の中で、環境に優しい働きを目指します。

国の進める、循環型社会の実現に向けて地域社会との調和をはかり、土木事業及び産業廃棄物処理業を行います。

このため環境に配慮した土木工事の実施及び産業廃棄物の適正処理並びにリサイクルの推進に全力で活動します。

2 基 本 方 針

すべての活動が環境に影響を与えていることの自覚を持ち、わたしたちが、事業活動する中で、以下の環境保全活動を推進します。

- ・ 土木事業及び産業廃棄物処理業の展開にあたり、重機、施設、車両の省エネ活動を行い、電力使用量、化石燃料使用量の効率的使用により二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ・ 土木工事現場及び産業廃棄物中間処理において、リサイクルを推進し廃棄物排出量を抑制します。
- ・ 水道の使用をできる限り控えて、節水に努めます。
- ・ グリーン調達を推進に努めます。
- ・ 環境目標を達成するため全社員がそれぞれの役割の中で、創意工夫を重ね環境に配慮した事業活動を行います。
- ・ 環境方針は、従業員に周知し、これを確実にするため全社員による環境教育を実施し、環境保全に対する意識づけを随時行います。
- ・ 環境保全関係の法令を遵守し、環境汚染の防止に努めます。

平成 19 年 7 月

平成 26 年 10 月 1 日改訂

Marusho.D

株式会社丸正土木

代表取締役 桐生 竜治

4 環境目標

28年以降の中長期環境目標

【本社（総務営業、解体土木、収集運搬事業部）】（期間は1月～12月）

NO	環境項目	単位	基準年実績	目標年度		
			平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
1	電力使用量の削減	kWh	15,138	15,123 (△0.1%)	15,108 (△0.2%)	15,093 (△0.3%)
2	化石燃料使用量の削減 [ガス、ガソリン、軽油]	MJ	4,313,408 ガス 25N m ³ ガソリン 12,256ℓ 軽油 101,747 ℓ	4,390,095 (△0.1%)	4,304,781 (△0.2%)	4,300,468 (△0.3%)
3	二酸化炭素排出量の削減 [電力、ガス、ガソリン、軽油]	kgCO ₂	304,273	303,969 (△0.1%)	303,664 (△0.2%)	303,360 (△0.3%)
4	上水使用量の削減	m ³	162	162以下 (現状維持)	162以下 (現状維持)	162以下 (現状維持)
5	グリーン調達の推進	品目	22	25以上 (+3)	30以上 (+8)	35以上 (+13)

【資源循環プラント（廃棄物処理事業部）】

NO	環境項目	単位		基準年実績	目標年度		
				平成25～27年 平均値	平成28年	平成29年	平成30年
1	電力使用量の削減	kWh	焼却 処理量 1t当り ※ ₁ 5,195.25t	130.0 675,627kWh	130.0以下 (現状維持)	130.0以下 (現状維持)	130.0以下 (現状維持)
2	化石燃料使用量の削減 [灯油、重油、ガス、軽油]	MJ		790.2 灯油 13,018ℓ 重油 84,000ℓ ガス 22.6N m ³ 軽油 8,923ℓ 4,105,354MJ	789.4 (△0.1%)	788.6 (△0.2%)	787.8 (△0.3%)
3	二酸化炭素排出量の削減 [電力、灯油、重油、ガス、軽油及び廃プラ・廃油焼却量]	kgCO ₂		506.48 廃プラ 576.7t 廃油 159.5t 2,631,313kgCO ₂	505.97 (△0.1%)	505.47 (△0.2%)	504.96 (△0.3%)
4	廃棄物排出量の削減※ ₃	t	中間 処理量 1t当り	0.071 1,289.08t	0.071以下 (現状維持)	0.071以下 (現状維持)	0.071以下 (現状維持)
5	上水使用量の削減	m ³	※ ₂ 18,146.22t	0.040 上水 727 m ³	0.040以下 (現状維持)	0.040以下 (現状維持)	0.040以下 (現状維持)
6	再資源化率の向上※ ₄	%		85.5 15,518.53t	85.5以上 (現状維持)	85.5以上 (現状維持)	85.5以上 (現状維持)

※₁ 焼却処理量：受託産廃及び自社廃棄物（解体工事による産廃）の焼却処理量合計

※₂ 中間処理量：受託産廃及び自社廃棄物（解体工事による産廃）の焼却処理量及び破砕処理量合計

※₃ 廃棄物排出量：受託産廃及び自社廃棄物（解体工事による産廃）の最終埋立処分量

※₄ 再資源化率：中間処理量における再資源化量の割合

注）購入電力の二酸化炭素排出係数は、平成26年度東北電力糺実排出係数の0.571 kg-CO₂/kWh

・化学物質の使用はないため目標設定はしないが、焼却施設より少量の排出があるため適正管理の確認を行う。

・資源循環プラントの基準年は、実績にばらつきがあるため、過去3か年の平均値とした。

5 環境活動計画及びその取組結果と評価、次年度の取組内容

環境方針及び環境目標を達成するため、以下の環境活動計画に基づき活動しました。

なお、環境活動計画は、本社・解体土木・収集運搬事業部門及び廃棄物処理事業部門についてそれぞれ定め、責任者が3か月に1回の頻度で取組状況を点検しました。

活動期間の取組結果の評価及び次年度の取組内容は以下のとおりです。

次年度重点強化活動（引き続き継続）

本社・解体土木・収集運搬事業部…車両のエコドライブ
 廃棄物処理事業部…破碎施設の効率のよい電力の使用

強化

強化

① 電力使用量の削減（二酸化炭素排出量の削減）

取組内容	本社・解体土木・収集運搬事業部	廃棄物処理事業部	次年度取組
1 事務所及び休憩室において電力の削減を実施する。			
<ul style="list-style-type: none"> ・昼休みは消灯する。 ・不要な所では、電灯を消す。不要な蛍光灯は取り外す。 ・空調機のフィルターの掃除を定期的に行う。 ・冷房設定温度を 28℃に維持する。 ・暖房設定温度を 22℃に維持する。 ・待機電力は、極力使用しない。（テレビ、エアコン、パソコン） 	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	継続
2 破碎施設の効率のよい電力の使用を心がける。			
<ul style="list-style-type: none"> ・破碎施設及び焼却焼成施設の省エネ運転を実践する。 ・破碎施設及び焼却焼成施設について、定期的な点検・整備を行い適切な性能を維持する。 ・破碎施設及び焼却焼成施設について、効率的な稼働が行われるよう稼働日程管理を行う。 	—	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	強化 継続

② 化石燃料使用量の削減（二酸化炭素排出量の削減）

取組内容	本社・解体土木・収集運搬事業部	廃棄物処理事業部	次年度取組
1 車両のエコドライブ			
<ul style="list-style-type: none"> ・車両のエコドライブを実践する。 ・不要時はエンジンを止める。 ・運搬車両は、経済速度で走る。 ・点検・整備を実施し、タイヤの空気圧を適正に保つ。 ・無駄な荷物は積まない。 ・無駄な空ぶかしをやめる。 ・急発進、急加速、急ブレーキをやめ、適切な車間距離をとる。 	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	強化 継続
2 重機及び焼却施設の効率のよい化石燃料使用を心がける。			
<ul style="list-style-type: none"> ・重機のアイドリングを極力減らす。 ・重機・機器の省エネ運転を進める。 ・重機・機器の整備・点検を定期的に行い、性能を維持する。 ・工事の工程管理を計画的に行い、効率的な工程管理を行う。 ・効率的な工事手順の確立を目指し、改善点を積み上げる。 ・焼却焼成炉の省エネ運転を実践する。 ・バックホー及びパワーショベルの省エネ運転を実践する。 	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	継続

③ 廃棄物排出量の削減

	本社・解体土木・収集運搬事業部	廃物処理事業部	次年度取組
1 事務室及び休憩室において、廃棄物の削減を実施する。			
<ul style="list-style-type: none"> 裏面コピーを実施する。 使用済みの紙は、再生紙に活用されるような回収ルートに回す。 分別を徹底し、再生資源として活用できるものを分別し、回収ルートに回す。 使いきり商品を控え、何度も使える商品を購入する。 	○ △ ○ ○	○ ○ ○ ○	継続
2 中間処理業及び解体土木事業において、廃棄物の削減を実施する。			
<ul style="list-style-type: none"> 解体工事・土木部門工事において発生する木くず、がれき類の再生資源化を図る。 解体工事・土木部門工事において発生する混合廃棄物の分別を徹底する。 中間処理の依頼者にがれき類等の分別の徹底を要請する。 木くず及びがれき類の中間処理は、再資源化させるよう中間処理し再資源化ルートに乗せるよう配慮する。 	○ ○ — —	— — ○ ○	継続

④ 上水使用量の削減

	本社・解体土木・収集運搬事業部	廃物処理事業部	次年度取組
<ul style="list-style-type: none"> 水道の栓をこまめに止める。 水道の水量は、適正に保つ。 洗車は、無駄な出しっぱなしはしない。 焼却炉に使用する排ガス冷却水は、排ガス処理の維持管理に支障のない範囲で、効率的な使用を行う。 	○ ○ ○ —	○ ○ ○ ○	継続

⑤ 再資源化率の向上

	本社・解体土木・収集運搬事業部	廃物処理事業部	次年度取組
<ul style="list-style-type: none"> 使用済みの紙は、再生紙に活用されるような回収ルートに回す。 分別を徹底し、再生資源として活用できるものを分別し、回収ルートに回す。 解体工事・土木部門工事において発生する木くず、がれき類の再生資源化を図る。 解体工事・土木部門工事において発生する混合廃棄物の分別を徹底する。 	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	継続

⑥ グリーン調達推進

	本社・解体土木・収集運搬事業部	廃物処理事業部	次年度取組
<ul style="list-style-type: none"> エコマーク商品等の環境物品を優先的に購入する。 	○	—	継続

⑦ 化学物質に係る適正管理

	本社・解体土木・収集運搬事業部	廃物処理事業部	次年度取組
<ul style="list-style-type: none"> 焼却施設の定期的な測定・点検を実施し適正に管理する。 	—	○	継続

【○：実施されている。△：概ね実施されているが改善の余地がある。×：実施されていない。】

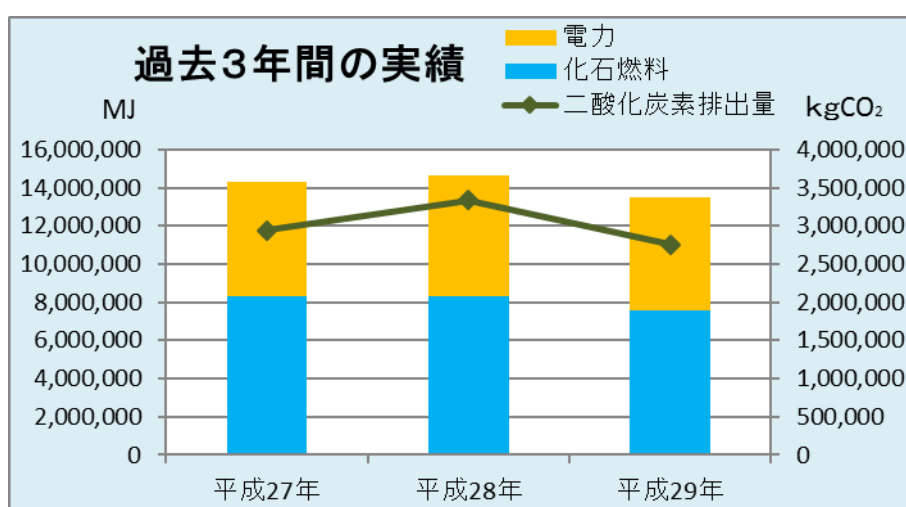
6 環境目標の実績

(1) 環境負荷の実績

平成27年～平成29年の当社の環境負荷の実績は、下表のとおりです。

項目	単位	平成27年	平成28年	平成29年
総エネルギー投入量	MJ/年	14,093,585	14,637,871	13,468,479
二酸化炭素排出量	Kg-CO ₂ /年	2,942,926	3,335,692	2,753,183
廃棄物排出量※	t/年	950	914	1,296
水資源投入量（上水）	m ³ /年	815	824	772

※廃棄物排出量は、受託産廃及び自社廃棄物（解体工事による産廃）の最終埋立処分量



(2) 環境目標とその実績

目標の達成状況（活動期間：平成29年1月～12月） 【本社（総務営業・解体土木・収集運搬事業部）】

No.	項目	単位	基準年実績	目標	実績	評価 ○：達成 ×：未達成 (削減率)
			平成27年	平成29年 (削減率)		
1	電力使用量の削減	kWh	15,138	15,108 (△0.2%)	14,303	○ (△5.5%)
2	化石燃料使用量の削減 [ガス、ガソリン、軽油]	MJ	4,313,408 ガス 25N m ³ ガソリン 12,256ℓ 軽油 101,747ℓ	4,304,781 (△0.2%)	4,226,273 ガス 26N m ³ ガソリン 8,193ℓ 軽油 103,144ℓ	○ (△2.0%)
3	二酸化炭素排出量の削減 [電力、ガス、ガソリン、軽油]	kgCO ₂	304,273	303,664 (△0.2%)	298,034	○ (△2.1%)
4	上水使用量の削減	m ³	162	162以下 (現状維持)	150	○ (△7.4%)
5	グリーン調達の推進	品目	22	30以上 (+8)	34	○

目標の達成状況（活動期間：平成29年1月～12月） 【資源循環プラント（廃棄物処理事業部）】

No.	項目	単 位		基準年実績	目 標	実 績	評 価 ○：達成 ×：未達成 (削減率)	
				平成27年	平成29年 (削減率)			
1	電力使用量の削減	kWh	焼却 処理量 1t当り ※ ₁ 5,195.25t	130.0 675,627kWh	130.0以下 (現状維持)	94.0 587,275kWh/ 6,246.78t	○ (△27.7%)	
2	化石燃料使用量の削減 [灯油、重油、ガス、軽油]	MJ		790.2 灯油 13,018ℓ 重油 84,000ℓ ガス 22.6N m ³ 軽油 8,923ℓ 4,105,354MJ	788.6 (△0.2%)	532.9 灯油 9820 重油 70,000ℓ ガス 23.5N m ³ 軽油 14,482ℓ 3,328,694MJ/ 6,246.78t	○ (△32.6%)	
3	二酸化炭素排出量の削減 [電力、灯油、重油、ガス、軽油 及び廃プラ・廃油焼却量]	kgCO ₂		506.48 廃プラ 576.7t 廃油 159.5t 2,631,313kgCO ₂	505.47 (△0.2%)	393.02 廃プラ 517.88t 廃油 187.26t 2,455,149kgCO ₂ / 6,246.78t	○ (△22.4%)	
4	廃棄物排出量の 削 減※ ₃	t		中間 処理量 1t当り ※ ₂ 18,146.22t	0.071 1,289.08t	0.071以下 (現状維持)	0.087 1,296.04t/ 14,977.64t	× (+22.5%)
5	上水使用量の削減	m ³		0.040 上水 727 m ³	0.040以下 (現状維持)	0.042 上水 622 m ³ / 14,977.64t	× (+5.0%)	
6	再資源化率の向上※ ₄	%		85.5 15,518.53 t	85.5以上	85.5以上 (現状維持)	83.1 12,439.6t/ 14,977.64t	× (△2.8%)

※₁～※₄はP6参照

(3) 取組結果の評価

【本社（総務営業・解体土木・収集運搬事業部）】

(1) 電力使用量の削減

電力使用量の削減に係る環境目標は基準年0.2%削減の15,108kWhです。

実績は14,303kWhと基準年比で5.5%減少し環境目標を達成することができました。

一昨年から防犯用照明（ハロゲンナイター）を設置したため、年間を通じて使用量が増加していましたが、増加率が大きいことから漏電検査を実施し、配線改良工事を行いました。それ以降は、使用量が減少しました。

また、降雪量等の天候に左右されるところも大きいですが、引き続き節電に努めていきます。

(2) 化石燃料使用量の削減

化石燃料使用量の削減に係る環境目標は、基準年0.2%削減の4,304,781MJです。

実績は4,226,273 MJと基準年比で2.0%減少し、環境目標を達成することができました。

社用車2台をクリーンディーゼル車に入替えたことにより、ガソリン使用量は33.2%減少しました。軽油使用量は、軽油車両の増車に加え、大型重機の入れ替えにより、使用量は1.4%の増加となりました。

今後も、引き続きエコ安全ドライブを徹底し、化石燃料使用量の節約に努めていきます。

(3) 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量の削減に係る環境目標は、基準年 0.2%削減の 303,664 kg CO₂ です。実績は、298,034 kg CO₂ と基準年比で 2.1%減少し、目標を達成することができました。

(4) 上水使用量の削減

上水使用量の削減に係る環境目標は基準年現状維持の 162 m³ です。実績は 150 m³ と基準年比で 7.4%減少し、環境目標を達成することができました。節水については、洗車時の節水活動を継続していきます。

(5) グリーン調達の推進

グリーン調達の推進に係る環境目標は、累計購入品目数の 30 品目以上としました。実績は 34 品目と目標を達成できました。引き続きエコ商品の購入を優先させていきます。

【資源循環プラント（廃棄物処理事業部）】

(1) 電力使用量の削減

電力使用量の削減に係る環境目標は基準年現状維持の 130.0kWh/焼却処理量 1 t 当りです。実績は 94.0kWh/焼却処理量 1 t 当りで基準年比で 27.7%減少し、環境目標を達成することができました。電力使用量は、基準年比 13.1%減少となりました。これは、焼却炉の温度管理を徹底したことから、電力使用量が大幅に削減できました。今後も管理徹底により効率化を図ります。

(2) 化石燃料使用量の削減

化石燃料使用量の削減に係る環境目標は基準年実績 0.2%削減の 788.6MJ/焼却処理量 1 t 当りです。実績は 532.9MJ /焼却処理量 1 t 当りと基準年比で 32.6%減少し、環境目標を達成することができました。化石燃料は 18.9%減少しており、焼成炉等に使用する重油の使用量が減少したことも要因です。重機の入替に伴い、軽油の使用量の増加が見られましたが、日々の省エネ活動は評価できる結果でした。破碎処理は時間短縮等の効率の良い稼働を進め、破碎機及び重機の点検整備を定期的に行い、今後も節約に繋げていきます。

(3) 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量の削減に係る環境目標は、基準年実績 0.2%削減の 505.47kgCO₂/焼却処理量 1 t 当りです。実績は 393.02kgCO₂/焼却処理量 1 t 当りで、基準年比 22.4%減少し、環境目標を達成することができました。廃プラスチック類の焼却処理量が 10.2%減少し、総二酸化炭素排出量は 6.7%の減少となりました。焼却量も 20.2%増加したため、原単位目標を大きく達成することができました。焼却炉の管理徹底や、破碎処理の効率化を進め、今後も節電節約に努めます。

(4) 廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量の削減に係る環境目標は基準年実績現状維持の 0.071t/中間処理量 1 t 当りです。実績は 0.087t/中間処理量 1 t 当りと、基準年比で 22.5%増加し、環境目標を達成することができませんでした。焼却量が増加したことで、燃え殻の埋立処分量も増加しました。また、事業場の整理を進める中で、大量排出を行ったことにより、目標未達成となりました。一部、燃え殻・ばいじんは委託再資源化処理を行い、廃棄物排出量の削減を行っています。今後、更に増量できるよう、努めて参ります。

(5) 上水使用量の削減

上水使用量の削減に係る環境目標は、基準年実績現状維持の 0.040 m³/中間処理量 1 t 当りです。実績は 0.042 m³/中間処理量 1 t 当りと、基準年比で 5.0%増加し環境目標を達成することができま

せんでした。

水道は接続する他社工場とメーターが一緒のため削減はなかなか困難ですが、協力をお願いしているところです。今後も節水活動を継続していきます。

(6)再資源化率の向上

再資源化の割合は、中間処理量に占める再資源化量の比率とし、環境目標は85.5%以上です。実績は83.1%で環境目標を達成することができませんでした。

コンクリートがら及びがれき類の受入が減少し、再資源化量の拡大には至りませんでした。

今後も再資源化を徹底し、燃え殻、ばいじん、廃プラスチック類等も再資源化ルートに乗せ、再資源化の向上を図っていきます。

7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境法規については、適用となる環境関連法規を取りまとめ、これを基に遵守状況をチェックしました。

自己点検した結果、関連法規の違反はないことを確認しました。

また、過去3年間行政当局からの違反の指摘や訴訟、住民からの苦情等もありません。

No.	環境関連法規	適合状況
1	廃棄物処理法 新潟県産業廃棄物等の適正処理の促進に関する条例	適合
2	新潟県生活環境の保全等に関する条例	適合
3	水質汚濁防止法	適合
4	大気汚染防止法	適合
5	P R T R 法	適合
6	ダイオキシン類対策特別措置法	適合
7	悪臭防止法	適合
8	浄化槽法	適合
9	フロン類の使用の合理化及び管理の 適正化に関する法律	適合
10	家電リサイクル法	適合
11	自動車リサイクル法	適合
12	消 防 法	適合
13	三条市火災予防条例	適合
14	道 路 交 通 法	適合
15	道路運送車両法	適合
16	建 設 業 法	適合
17	建設リサイクル法	適合
18	環境保全協定書	適合
19	感染性廃棄物処理マニュアル	適合

8 代表者による全体評価と見直しの結果

本社では、すべての項目において目標を達成することができました。防犯用照明設置による漏電の、改善が図られ、電力使用量は基準年比 5.5%減少しました。総二酸化炭素排出量は基準年比で 2.05%減少し目標を達成することができました。

資源循環プラントにおいては、焼却炉の温度管理等徹底を図り、電力使用量を削減することができました。総二酸化炭素排出量は、廃プラスチック類の焼却量が減少したこともあり、基準年比で 6.7%減少しました。焼却量の増加による原単位目標は達成したものの、破碎処理量も含む中間処理量当たりの目標が未達成となりました。コンクリートがら及びがれき類の受入量が減少したことが原因です。

今後は、日々改善を模索しながら、より一層エネルギー使用量の削減に努めてまいります。

見直しの結果

- ◇環境方針：変更しない。新業種別ガイドライン発表後に、対応すること。
- ◇環境目標：一部次年度目標を達成している項目もあるが、中長期の 3 年間での目標達成を目指し、変更はしない。
- ◇環境活動計画：内容の変更はしないが、引き続き強化活動を定め活動する。